

毎月、大阪城の前にあるホテルで聖書の講演会をしていて、毎回思いがけない方がお越しになります。先週あったんですが、大学時代のバイブルクラブのメンバーが40年振りに来て「全然変わってないね。」お互いすごく変わっているんですけどね。気持ちが全然変わってないという事で、楽しい時間を過ごしました。

メッセージを聞くために文字通り世界中から来てくださって、その時はブラジルから。もちろん他の用事もあるのですが、メインは「日本語で聖書メッセージを聞くために、この日に合わせて日本に戻りました。」ブラジルは今夏。「大阪、さぶ〜！」しばらくお話しして、紹介して下さった方が「彼は明日ブラジルに帰ります。すごく長い旅になるんですよ。それで、はなむけの言葉を何か言ってやってください。」

**ローマ 8:31** 神が私たちの味方であるなら、だれが私たちに敵対出来るでしょう。

これは私が大好きな聖書の言葉で、「私は小さくて弱い者かもしれないけど、私を支えて味方になってくださる方が全知全能者ならば、誰が私の前に立ち足るだろう。恐れる事はない。」

これから海外に行くので、はなむけの言葉にしました。

ところで、「はなむけ」という言葉の由来ですが、特別な祝福の時、花束のプレゼントあるじゃないですか。去年もここでギター弾かせてもらった時、花束。一生で5番目くらいに嬉しい事でしたが。私は今まで、言葉の花束を手向ける、はなむけの言葉と思っていたら「違うよ」と教えてもらいました。

昔、新しい所に出発する人を激励する時、その人が乗っている馬の鼻先に行くべき方向に向ける。はなむけの「はな」は「花」ではなくて「馬の鼻」。

行くべき方向に向かって「さあ、行ってらっしゃい」というのが「はなむけ」。

であるならば、聖書は、神様による人間へのはなむけの言葉で満ち満ちているのではないかと思ったんです。「人よ。正しい方向に向かって、真っ直ぐに進んでごらん。わたしが応援しているから。」

真っ直ぐな方向とは何か？人間は、私たちをお造りになった神様から離れて生きてるので、生まれて来た時と同じような方向に進んで行く限り、原点に戻る事はできません。

聖書が言う私たちが行くべき・向くべき・正しい方向とは、私たちが造ってくださった真の神様のところに返るという事です。故郷に帰る。あるべきところに返る。私を造り、私の命を支え、人生の目的と使命を与えてくださっている方に戻る。神様の方向に向かって返ろう。

それで、返るのに必要な全ての備えをするために、イエス・キリストがこの世界に来てくださったのです。

向くべき方は人・世間・流行・そんなんじゃない。今日は、救い主イエス・キリストにのみ心を向けて、人生が転換した人のエピソード・お話をさせていただきたいと思います。

**マルコ 10:46** さて、一行はエリコに着いた。そしてイエスが、弟子たちや多くの群衆と一緒にエリコを出て行かれると、ティマイの子のバルティマイという目の見えない物乞いが、道端に座っていた。

一行はエリコに着いた。この時キリストは単独で旅をしていたのではなく、周りに大勢の取り巻きがいました。イエスの一行。その中には弟子もいたし、多くの群衆もいた。

理解度の違いがあっても、イエスと共に歩んでみたいと思う人たちが一緒にいたんですね。

エリコはエルサレムの隣にある町で、エリコから上り坂で、どんどんエルサレムに向かって行きます。この時イエスは、この世界に來られた一大目的達成のためにエルサレムに進んでいるのです。十字架ですね。だから、この時のイエス様には特別な輝きがあったと思います。一行なので、たくさんの方が群がっていた。それはやはりイエスに魅力があったからでしょうね。

ちょっと話が変わりますが、今の天皇陛下の事を、今、日本国民統合の象徴という事で今上(きんじょう)天皇と言います。天皇の名前を口にする事はしない、というのが日本の儀礼というかね。本当は徳仁(なるひと)天皇でしょ。でも、そう言わない。いつの時代も今上天皇と言います。

実は今上天皇、私と同年なんですよ。昭和35年。私には天皇はおじいさんのイメージ。私の天皇陛下のイメージは昭和天皇です。だから、自分と同じ年齢の方が天皇陛下なんだと思うと、重責を担っておられる事について祈ってます。あの方のために。是非キリストを信じて欲しいなど。いつの日か宮中晩餐会に招いてくれへんかな。7割くらい本気で祈ってるんですけど。

ついこの間まで約60年間、皇太子時代があって、ある日を境に今上天皇になられたわけです。ところで皇太子と天皇、どう違うんでしょう？それを乗り物で説明しているエッセイを読みました。皇太子が国内を新幹線で移動する時は、グリーン車1両とその前後1両の合計3両を貸し切ります。皇太子殿下・妃殿下・宮内庁職員・宮内庁に繋がる記者たちがガッチリ固めているので、この3両には誰も入れません。

天皇・皇后両陛下の場合は全編成です。10両編成なら10両全部、16両編成なら16両全部貸し切り。私らみたいに自由席で走るとかじゃない。自由席は、あれは悲惨ですよ。悲惨ですけど、私はどんどん話がずれてしまったりすると、指定席を取っていても乗り遅れる事があまりにも頻繁なので、とにかくどれかに乗る。疲れたと思っている時に、隣に酔っ払ったおじさんが座ったら「うわー！」プシュッ開けてガツ飲み出したら、もうどうしようと。そういう事は、今上天皇は経験なさらない。当たり前ですが。

飛行機の場合は政府専用機が多いのですが、それが無い場合、例えば首相が既に外遊で使用して無い場合は民間航空会社を使います。が、ピーチ・LCCにはお乗りにならない。JALかANA。もちろん貸し切りですよ。そして天皇が乗られた時だけは、ある人物が同乗します。それは社長。JALの時はJALの社長。ANAならANAの社長。最高経営者が同乗する事によって、命の保証をするという。そんな事せんでも、もちろん大事に飛ぶんだけど、これは形。かたちなんです。

特に別格は海外渡航の時だそうです。私たちが海外に行く時、どうしても必要なのはパスポート。パスポートは万国どこに行っても世界共通の身分証明書で、これが無いと、そもそも自分の国を出国できないし、相手国に入国する事もできない。必ず1人1冊持たなければならず、ゼロ歳の赤ちゃんでも1人1冊持つんです。持たないと出れない。

身分証明であると同時に、「貴国に入った間、この日本国パスポートを持っている人の安全保護を頼む」という事で、ビザなし渡航ができるパスポートって、世界ナンバーワンは日本ですよ。日本は殆どの国でビザなし渡航ができると言われていています。だから、これは必ず持たなければなりません。皇太子殿下・妃殿下も、外国に行かれる度に1回限りのパスポートを発行してもらいます。

それが無いと出られません。ところが、たった1人天皇陛下だけパスポート無しです。天皇だけでなく、ロイヤルファミリーの頂点に立つ人は、お互いの国の取り決めで持たなくていい。なぜか？私は10年物なので赤いパスポート。パスポートの表紙は何か覚えてはりますか？国章が付いています。日本は菊の御紋。日の丸じゃない。天皇家の家紋がパスポートのシンボルマーク。天皇陛下自身は自分が権威の源なので、証明を必要としないという儀礼なんです。だからオッケーなんですね。

これはプロトコールと言って、国と国の間で決めた取り決めで、権威を認め合うとなっているんです。人間が決めた儀礼の中でも、最高峰の人にはそういう特権や権威があるとすれば、ましてやこの世界をお造りになった神・創造主が人としてこの世界に来られた時、どんな権威だろうか。

ところが、昨年末のクリスマス集会の時に紹介したように、キリストは家畜小屋で、ほんとに貧しい貧しい所で生まれ、貧しい村でお育ちになりました。しかしこれを見ると、貧しいから見向きもされないというのではなく、**さて、一行は**と書いてある。イエスの周りに多くの人々が付き従うようになっていたんですね。なぜなのか？

イエス・キリストの神ならではの言葉・神ならではの態度・神ならではの奇跡的行動。普通の人じゃない。確かに普通の人のように地上に生まれ、赤ちゃんからスタートしたけど、3年半の間、キリストとしての使命を開始された時から本領発揮。神にしか言う事ができない言葉、例えば、敵対者たちに取り囲まれた時、「あなた方の中でわたしに罪があるという者は指摘してみなさい。」誰もできなかった。

あなたを憎んでいる人に対して、「私の欠点、言っごらん」と言ったら、100も200も出て来るでしょう。それだけでなく、あなたを好意的に見てくれている家族に向かって、「私に欠点があると思うんだったら言っごらんなさいよ。」喧嘩になりませんか？

「イエスをどないかしたろか！」と、いきり立っている人たちに取り囲まれた時、「あなた方の中でわたしに罪があるという者は指摘してみなさい。」そう言われて、ウツと詰まって言えないってどんな人格？誰も答える事ができない難問も、イエスは次から次へと、悩みながらではなくすぐに答えられる。神ならではの言葉・神ならではの態度・神ならではの奇跡。それを見ていると、この方はただ者ではない。それどころか、「この方は旧約聖書に預言されている、人類救済のために神が送ってくださった救い主ではないか」と分かった人たちが弟子です。「そうかもしれない。なんか面白いな。すごいな」と興味本位で従っているのが群衆たち。

**マルコ 10:46** さて、一行はエリコに着いた。そしてイエスが、弟子たちや多くの群衆と一緒にエリコを出て行かれると、ティマイの子のバルティマイという目の見えない物乞いが、道端に座っていた。

バルティマイ、バルは〇〇の息子という意味です。だからティマイの息子。この文では「ティマイの子の『ティマイの息子』」という事になってしまうけど、まあそれはいいです。

**マルコ 10:47-48**

**47.** 彼は、ナザレのイエスがおられると聞いて、「ダビデの子のイエス様、私をあわれんでください」と叫び始めた。

**48.** 多くの人たちが彼を黙らせようとたしなめたが、「ダビデの子よ、私をあわれんでください」と、ます

まず叫んだ。

ナザレはつまらない町です。見下された地名がタイトルに付いている、みすぼらしい所の出身であるナザレのイエスがおられるという事を聞いた時、物乞いのバルティマイは「ナザレのイエス様、私をあわれんでください」ではなく、「**ダビデの子のイエス様、私をあわれんでください**」と叫びました。

**ダビデの子**は救い主のタイトルです。彼は盲人の物乞いでしたが、イエスがただ者ではないというレベルの理解ではなく、救い主だという信仰を既に持っていますね。

なので、「救い主イエス様、救い主ならではの介入を私の人生に与えてください！」と叫ぶけど、「うるさい！」みたいに、皆がそれを止めた。**たしなめた**。

物乞いをしている人が「**私をあわれんでください**」と言った時、お金をせびっていると解釈したから。

だけど、**ダビデの子**と言っているんですね。彼が思いっきり、ありったけの信仰を働かせて「**ダビデの子のイエス様、私をあわれんでください**」と叫んでいるのに、周りの人たちは「こいつ、イエス様からお金をせびろうとしてるんや。意地汚い奴や」という事で黙らせようとした。皆さん。イエス・キリストは、心の叫びを本当に理解する事ができる方です。

### ポイント 1. イエスは心の叫びを聞き取り、完全に理解する事ができる方。

イギリス出身の宣教師の手記を読んだ事があります。3人の娘さんがいて、滋賀県に宣教に来ました。奥さんもイギリス人で、3人の娘さんは一目で分かる白人の少女たち。

家事の役割分担があって、ゴミ出しを順番で朝の回収車来るまでにやるのですが、長女がゴミ出し当番になるとトイレに入る。それがめっちゃ長い。「長く入ってないで、早くゴミ出ししなさいよ。」  
「はい、分かりました。」出て来ない。妹たちが「私もしたいから、早く出てよ！」  
出て来たお姉さんにお父さんが「まだゴミ出ししてないよ。早くやらないとダメじゃないか。」  
「はい、お父さん。」返事はものすごくいい。妹が出て来ると、またトイレに入る。グズグズして、中々ゴミ出ししない。「ゴミ出しの時だけ、言う事聞かんなあ」と思っていたら、ある時分かった。

丁度ゴミ出しの時間に、近くの小学校に通う子供たちが、集団登校で洪水のように家の前を通るのです。ある時、娘の1人がゴミ出ししたら「おい、ガイジンや。」子供が言いました。「ホンマや。外人や。」  
「ガイジンや。」「ガイジンや。」小学生たちは、彼女らが日本語分らないと思っている。  
だけど、日本で生まれ育ったので英語よりも日本語の方がペラペラ。

外に出たら、自分と同じくらいの年齢の子たちが指さして「ガイジンや。ガイジン！ ガイジン！」  
それが居たたまれなくて、恥ずかしくて、顔を合わせたくなくて、集団登校が途切れるまでトイレでずっと待機する。そう思っているに違いないと、心の叫びを読み取った。  
「私が子供の心の叫びを聞き取れたのは、後にも先にもこれだけです」と書いてありました。

それで「ゴミ出ししなさい」と言うのをやめて「お父さんと一緒にゴミ出ししよう。」「え、今？」「今だよ。」  
外に出ると集団登校の子供たちが通る。その時、お父さんの方から「おはよう！」  
子供がびっくりする。「ガイジンが日本語でおはよう言うた！」  
お父さんが「おはよう！」、子供らが「お、おはよー。」これで、もう仲間に入る事ができたんです。  
挨拶は関係を繋ぐための第一歩です。その第一歩を個人で踏み切れないので、パパが手伝ってあげた。

実は、問題行動を起こす子供って叫んでるんです。心の叫びがあるんだけど、それを言葉にして言う事ができないので、問題行動にして表したり、訴えたり、関心を引こうとやるのですが、子供は叫んでますよ。言葉で叫べる子供はいいのですが、言葉で叫べない子供は問題行動で叫んでいる。

叫んでいるのは子供だけでないでしょ。皆さんも叫んでませんか？「何で夫は分かってくれないの?!」いや、夫も、もしかしたら叫んでいる。心の叫びを聞き取れたらこじれないですよ。でも、叫ぶという結果だけを見て「うるさいな。黙らせよう。」叫ばずにはおれない原因の部分が見えないので、対症療法でその場を取り繕うとしたり、抑え込んだりするんですね。

イエスは叫びが分かる。「**ダビデの子のイエス様、私をあわれんでください!**」中東の物乞いだからエネルギーだと思えます。日本的な、頭垂れて「憐れんで…」ではない。初めてイスラエルに行った時、エルサレムで物乞いにせびられて、ガイドは「渡さんでいい」言うけど、かわいそうやから渡した。

そしたら「こんな、はした金要らん」突き返されて。物乞いから“はした金”言われて「えーっ!」「折角恵むんやったら、もっと思い切った事せい!」言うわけ。女の物乞い。「あるやろ。それ出せ!」「俺も金ないんや」言ったら「釣り、出すから」って。釣り、もろたもんエネルギー。ガッツある。中東。そんなガッツあるんやったら、働いたらいいんちゃうかって、それは日本的な事かもしれませんが。

2000年前の**バルティマイ**。罪深い町と言われていたエリコを縄張りにして物乞いをやっていた。弱々しいメンタリティーでは生き延びれなかったと思えます。だから、いつものように「**憐れんでください!**」と叫んだ時「こいつ、イエスから金をせびって、たくさん貰おうと思うてるんや。」

しかし、見かけと心は違う。へらへら笑っている人が、心の中でもへらへら笑っているとは限りません。心の中であまりにも悲しいので、それを悟られまいとして、にこやかに振る舞っている事もあり得るのではないですか？

イエスはバルティマイの職業や身なり、そういうものに全く惑わされませんでした。「**ダビデの子よ、私をあわれんでください。**」彼が求めているのはメシアによる・キリストによる憐み、キリストによる恵みなんだと、心の奥深くにある叫びを聞き取る事が出来たのです。

皆さんの心の叫びを正確に聞き取る事ができる方、それがイエス・キリストです。上手な言葉で気持ちを言い表す事ができなくても、何に悩んでいるのか・何に悶えているのかイエスには全部分かっている。

バルティマイが偉いのは、人を相手にしないで、一貫してイエスに心を向けて行った。鼻がイエスに向いていた。はなむけの先はイエスだったんですね。

## ポイント 2. マルコ 10:48-49

48. 多くの人たちが彼を黙らせようたしなめたが、「**ダビデの子よ、私をあわれんでください**」と、ますます叫んだ。

49. イエスは立ち止まって、「**あの人を呼んで来なさい**」と言われた。そこで、彼らはその目の見えない人を呼んで、「**心配しないでよい。さあ、立ちなさい。あなたを呼んでおられる**」と言った。

はじめは**多くの人**がたしなめたんですね。ここで分かるように、キリストを本気で求めると、時として逆風が吹く時があるんです。真理を求めたら、皆がそれを応援してくれると思ったら大間違い。聖書の神/聖書の真理/イエス・キリスト。私の救い主イエス・キリストはどんな方かを、本気で探し求めて進んで行ったら、「あんまり凝らん方がええで」とかね。時に変人扱いされたり、何か危険な人みたいに思われたり。

世間は冷たい人ばかりじゃない。けど、あったかい人ばかりでもない。賛成する人もいるけど、「やめとけ」と押しとどめようとする人たちも必ず出て来る。この時は、彼がイエスの所に行くのを**多くの人**たちが止めた。**多くの人**たちの中には弟子もいたんです。「止めるはずがないやん」という人が止めました。お金をせびると思ったから。

私たちは「この人なら賛成してくれるだろう」と思う人が賛成に回ってくれなかったら萎えてしまうかもしれないけど、バルティマイには多くの人たちは見えない。いい意味で。そして、どこにイエスがおられるのか、近付いているのか、通り過ぎたのか、それすらも分からないので、どんなに遠くにおられても聞こえるように、だみ声を張り上げて「イエス様！」と叫んでいるんです。

世間は、大声になればなるほどそれを止めようとしています。しかし、**イエスは立ち止まって、「あの人を呼んで来なさい」と言われた。**真理を追い求めて行くと、世の中はストップに動くかもしれないけれど、神様はその世間をも支配しておられる方です。今までたしなめていた人に「**あの人を呼んで来なさい。止めるのをやめなさい。**」

本当の主権者は聖書の神様です。私たちが見ているあの人・この人は、すごく怖く見える時があるかもしれませんが。クリスチャンとして本格的に進んで行こうとすると、色々不安が出て来るかもしれませんが。だけど、この世界のあらゆる人間の心・あらゆる世界情勢・あらゆる国家権力、それら全部を上でコントロールして支配している方は神なんです。

全知全能の神様は、ご自分の全知全能の力を、キリストを呼び求める者のために喜んで使ってくださいの方なので、鼻先をイエスに向けて欲しいのです。イエスは「**来なさい**」とってください。イエスこそは、世界や私たちの身の回りの事を支配しておられる方なのでね。

**マルコ 10:50** **その人は上着を脱ぎ捨て、躍り上がってイエスのところに来た。イエスは彼に言われた。**

なんで**上着を脱ぎ捨て**たんでしょう？ 1秒でも早く行きたいので、引きずるような物は捨てて、身軽になって、**躍り上がってイエスのところに来た。**目に浮かぶようですね。目をつぶって2・3歩歩くだけで怖いよ。見えてるから躍り上がれるし、私もここでほたえますけど（\*騒ぐ・暴れる）。目つぶってたら、ぶつかりそうな気がして、中々できませんよね。彼は全盲ですが、喜んでイエスのところに来ました。その彼に向かって、

**マルコ 10:51** **イエスは彼に言われた。「わたしに何をしてほしいのですか。」すると、その目の見えない人は言った。「先生、目が見えるようにしてください。」**

これは不思議な言葉だと思いました。イエスは人となられた神なので、彼が何をしたいのか聞く前に既に知っています。彼が求めているのは、お金ではなく癒しである事を既に見抜いている。ですが、ここでわざと聞いたんです。「**わたしに何をしてほしいのですか。**」

目が見えるようになる事だと知っているのに、なぜ聞いたんでしょう？ 私は2つ理由があると思います。1つは、物乞いのバルティマイを「金しか考えていない」と思い違いしている人に、彼の本当の気持ちを分からせるため。「先生、目が見えるようにしてください。」  
彼が求めていたのは、次元の低い話ではなく、自分の壊れた部分を治していただきたいという事でした。

2つ目は、この言葉を通して、メシア信仰の告白を導いている。  
なぜ「目が見えるようにしてください」と言ったのか？「見えへんからやん」ではないですよ。  
見えない事を受け入れて諦めている人は「見えるようにしてください」とは言わないはずですね。

実は、旧約聖書の中にキリストの預言が書いてあるんです。「キリストが来たら、生まれつき目の見えない人の目が見えるようにする」という預言。  
「わたしに何をしてほしいのですか。」「ナザレのイエス様、ダビデの子のイエス様、メシアにしかできない奇跡を私に施していただきたいのです」。

彼がこう言ったのは、イエス・キリストをメシア/救い主だと既に信じているからです。  
つまり、信仰告白を公にさせるために、わざとこの質問をされたのですね。  
信じたら内緒にするのではなく、公にされたらいいです。旗色をはっきりさせる事によって、信仰がいよいよハッキリすると思います。

彼が言った「見えるようになりたい」という願いに応える事によって、「彼が信じている信仰は間違いではない。イエスこそキリストなんだ」という事をここで明らかにされているのです。

ところで、「目が見えるようになる」というのは、壊れていた目を治すという事ですが、ただ単に目が見えるという事ではありません。肉眼の目は見えているかも知りませんが、心の目はどうでしょうか？  
肉眼の目は壊れていないかもしれないけど、神様との関係が壊れたままの状態です。今まで生きてきたという事はありませんか？

聖書を見ると、全ての人は生まれながら、神様との関係が切れた状態で生まれて来てるんです。  
罪を犯したから罪人（つみびと）と言うよりも、神から離れるという性質を受け継いで今まで生きて来たのです。「重大な事は私が決めたい」と、神よりも私を神とする。そのような性質がこびりついているのではないですか？人は皆、創造主なる神様の前で罪人です。

「壊れている私の目を治してください。壊れている私を治してください」という願いを、神は喜んで聞いて下さいます。

マルコ 10:52 そこでイエスは言われた。「さあ、行きなさい。あなたの信仰があなたを救いました。」すると、すぐに彼は見えるようになり、道を進むイエスについて行った。

「あなたの信仰があなたを見えるようにしました」ではなくて、「あなたの信仰があなたを救いました。」  
目が見えるという以上の事を、彼は受け取っています。  
「救い主の力を経験して、救い主の救いをあなたは得ます。あなたの信仰があなたを救いました。」

彼は見えるようになりと書いてあります。普通、人間が生まれて最初に見るのはお母さん。  
赤ちゃんはそんなに見えてないんですよ。  
焦点距離も15センチより近かったり、25センチより遠かったら見えないと言われていました。

段々見えるようになって、自分の顔を一番覗き込んでくれる人間は多分母親じゃないか。  
母親にたっぷり愛される事によって、信頼してもいいんだという事を、経験を通して学んでいくわけです。

バルティマイは今までお母さんの顔・お父さんや兄弟の顔・友達顔を見た事がない。  
エリコにいても、エリコの町がどうなのか見た事がない。ずっと暗闇の中で生まれ育って来たのです。  
その彼が、**目が見えるようになって最初に見たのがイエス・キリスト**。

キリストの姿を見た時、感動したと思いますよ。恐らくイエスは彼をじっと見て、目と目がバチッと合った。  
バルティマイは目が見えるようになった事を、自分の事のように喜んでいて、イエスの表情を見て、「こんなにも親身に自分と一緒に苦しんだり、泣いたり、笑ったり、喜んだりしてくださる方がメシアなのか！」  
血の通った信仰というか、心と心が繋がって行くような瞬間だったのではないかと思います。

宮沢賢治（みやざわ けんじ/1896-1933）さん、ご存知ですよ。『雨ニモマケズ』『風の又三郎』『セロ弾きのゴーシュ』『注文の多い料理店』などなど。

確か花巻農業高校の先生。その生徒を教えるだけではなく、一人住まいの自分の宿舎に、貧しくて学校に行けない近所の子供たちを集めて文字や勉強を教えて面倒見ます。自分が作った童話の読み聞かせもして。

その村に手癖の悪い男の子が1人いました。見てなかったら万引きする。  
年老いて、余り身動きできないおばあさんのよろず屋さんでくすねたり、畑で農作物を勝手に取ったり。  
ある日、宮沢賢治が授業を終えてアパートに戻っていたら、途中に畑があって、その子が大根を抜いている最中。賢治が来た事に気がついて、「あっ」と振り向いたら賢治が見てる。  
賢治はひと言も言わないで、ただじっと見てる。1分経ち、2分経ち、3分…。  
その間ずっと引き抜こうとした姿勢のまま（\*中腰）。腰痛に悪い。でも、固まってしまったんですね。  
3分・4分経った頃、大根から手を離して、賢治に向かってペコリとお辞儀をして帰りました。

僕、この話がめちゃくちゃ好きなんです。その場にはいないけど情景が浮かぶ。  
賢治と少年が見つめ合っていた時間、どんなだったか？どんなまなざしでその子を見ていたんだろう？  
「お前、またやりやがって！」みたいな目じゃないと思う。それだったらお辞儀しない。多分。  
「その行為は君には相応しくない。似合っていないぞ。」  
「またやりやがって」の失望と苛立ちのこもった目ではなく、もっと暖かい期待している目。  
「それをやらなくてもいい人生を、君は選ぶ事も出来る」という、何かあったかいものが届いたんじゃないか。だから大根を手離してお辞儀したと思うんです。

バルティマイが最初に見た人がイエス・キリスト。  
「今エルサレムに向かって急いでいるのに、手こずらせやがって」と、キリストはそんなんじゃない。  
あったかい目で、バルティマイの目が開いた事が、まるで自分の事のように「良かったなあ。世界ってこんなだよ。良かったねえ」と、自分に寄り添って喜んでいて。  
そのキリストを見た時、**すると、すぐに彼は見えるようになり、道を進むイエスについて行った**。  
「自分の人生が建設されて行く事に、こんなにも喜びを感じる方から、もう離れ去りたくないわ！」と。

皆さんが目の病気、例えば白内障の手術をして見えるようになった時、手術してくれた先生に生涯ついて行きますか？それは迷惑ですよ。「あんた、何してんねん」と。虫歯になって、隣の歯科に行って治療して、「痛いのが治ったから、これからここに住みます。」やめてって断られる。

もしイエスに対する用事が目を治してもらおう事だけなら、貰うもの貰ったから、もうここでお別れしてもいいんです。しかしバルティマイは、ここからイエスと共に歩んだ。道を進むイエスについて行った。こんなにも自分を愛して、恵んで、癒やしてくださった方、この方の言葉をもっと聞いていたい。この方の行動をもっと直に見てみたい。今までは自分の目で見ることができなかったけど、開かれた目で、これからイエスがなさろうとする事を目撃したい。そう思って、ついて行ったんでしょう。

エリコの次に入った町がエルサレム。エルサレムでイエス・キリストは十字架にかけられます。バルティマイは開かれた目で、イエス・キリストが真っ裸にされ、鞭打たれ、リンチを受け、辱められ、傷だらけになって、十字架に磔（はりつけ）になる現場を見たのです。

若者たちに聖書の話をしている時、中学生の女の子から質問されました。「なぜ神様は、私たちの罪を赦すためにイエスを十字架にかけたんですか？イエスは罪のない方で、私の身代わりで死んでくださったから私の罪が赦される事は分かるけど、神様は全知全能でしょ。それなら、神が辛くなる方法以外の方法も考える事ができたんじゃないんですか？なぜ全知全能の神様が、イエスの十字架の犠牲という方法で私の罪を赦したんですか？それ以外の方法はなかったんですか？」

私たちの罪は、キリストの命が身代わりに支払われる事がない限り赦されないほど深いんです。私たちは「いけない事した。悪い事を思ってしまった。やってしまった」という、自分の心が知っている、不完全な良心が感じ取れる罪が全ての罪だと思っていて、本人にもその罪の深さが分かっていない。でも、神様は私たちの全部の罪をご存知で、その深い罪を赦すためには、イエス・キリストの犠牲未満のものでは贖い取る事はできないのです。

と同時に、もう1つの理由があります。神様の私たちへの愛は、キリストの犠牲以下のものでは表し切れないほど大きいからです。愛は、その人のためにどれくらい犠牲を払えるかで量る事ができます。

**ヨハネ 3:16** 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。

神は、ひとり子を十字架で見捨ててもあなたを救いたい、と思うほどにあなたを愛された。それを言葉ではなく、あの十字架という行動で愛を表してくださったのです。

そして、バルティマイはそれを見たんですね。

福音書に「バルティマイ」と名前が書いてあるので、彼は初代教会のメンバーになったと思います。

キリストは十字架にかかって死んだだけでなく、3日目によみがえって、救いの道を完成してくださった。どんな罪人も、死んだらキリストによって天国に行く道を開いてくださった、と語るんですね。

ブラジルの奥地で宣教している人がいました。長男はマシュー君。マタイを英語でマシューと言います。ある時、マシュー君がものすごい高熱で、車で病院に行くのですが、1番近い病院まで150キロ。「もうちょっとだからね」と励ましながらフルスピードで運転していると、「お母さん、目が見えなくなって来た。どんどん暗くなって、夜中みたいで怖い！ 見えない！」

ところが途中で「怖い」と言わなくなって、何か、もがいているみたいに手を空中で動かしている。不安なのかと思って、お母さんが手をギュッと握ると、その手を振り払うんです。

また手を伸ばそうとするので握ってあげると振り払う。「マシュー、どうしたの？」

「イエスさまが迎えに来た。イエスさまが手を差し出してる。僕、イエスさまの手を握るんだ。」

そして、そのまま召されました。まだ5歳か6歳。

